

近畿農政局「消費者の部屋」

12月8日は
(オーガニックデイ)



有機農業の日

～農業のみらいは、私たちのみらい～



有機農業推進法が成立してから10周年を記念し、2016年に、12月8日が記念日「有機農業の日」として制定されました。

今回の「消費者の部屋」展示では、有機農業の日関連として、近畿での有機農業の取組、みどりの食料システム戦略「みえるらべる」などについてパネル展示やパンフレットをご紹介します。

展示期間 令和6年 12月8日(日)～12月13日(金)
9時～22時(開催初日は16時から、最終日は16時まで)

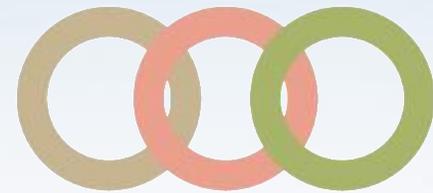
展示場所 KYOTO Co-Lab(きょうところらぼ) コープ二条駅 2階(京都生活協同組合)
京都市中京区西ノ星池町230
(京都市営地下鉄東西線「二条」3番出口すぐ、JR山陰線「二条駅」下車、徒歩約3分)

お問合せ先 近畿農政局 消費・安全部 消費生活課
担当者：上野、千田、高橋
電話：075-414-9771(直通)

「有機農業の日」
特設サイトはこちら！



農林水産省
近畿農政局



有機農業の日

12月8日は
有機農業の日
(オーガニックデイ)

～農業のみらいは、私たちのみらい～

展示期間

令和6年12月 8日(日)

～ 12月13日(金)

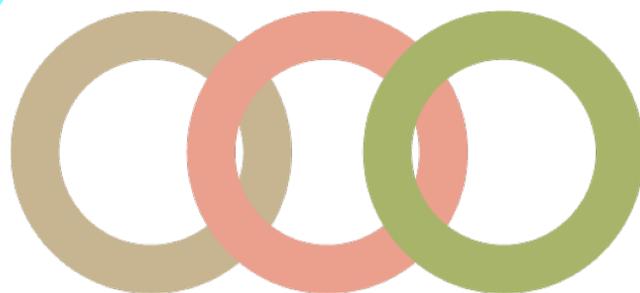
展示場所

KYOTO Co-Lab(きょうところらぼ)

コープ二条駅 2階(京都生活協同組合)

※詳しくは近畿農政局ホームページをご覧ください。

オーガニックデイ
12月8日は「有機農業の日」



有機農業の日

「有機農業の日」

って知ってる？

2006年12月8日に有機農業推進法が成立してから10周年を記念し、2016年に、12月8日が記念日「有機農業の日」として制定されました。

有機農業って

“やさしい”農業

有機農業とは、化学肥料や化学農薬を原則使わず、可能な限り環境に配慮した栽培方法です。

土壌環境や生物の多様性など、農業生態系を守ることに繋がります。

皆さんの身近なところにも、オーガニックな「モノ」「コト」があふれています。

「有機農業の日（オーガニックデイ）」をきっかけに、新しい体験をしてみませんか？

「有機農業の日」の取組イメージ

「有機農業の日」特別期間：令和6年11月18日（月）～12月13日（金）

学校給食での利用

- 特別期間中1日でもOK！
- 品目問わず、一品の導入でもOK！

有機食品の販売促進

- 特別期間中1回でもOK！
- 〈取組例〉
有機農業の日のポップやチラシの掲示
有機農産物特設コーナーの設置 など

有機農業関連イベント

- 特別期間中に開催する全国の有機農業関連イベントを募集します！



「有機農業の日」特設サイト OPENしました！

「有機農業の日」特設サイトに
今すぐアクセス！



左の二次元バーコードを読み取るか、下記のURLを
直接入力してアクセスしてください。

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyoyuuki/yuki1208/yukinohi.html>



有機農産物を使用した学校給食を
提供予定の自治体の紹介



ご賛同企業の
取組内容の紹介



全国各地の有機農業関連の
イベント情報の紹介

日本の農業の未来について考える1日にしませんか？

自然の恵みを次世代へ



未来を育む 有機農業の農地

地球温暖化防止

生物多様性保全

CO₂削減

有機物の
施用

殺虫剤を
使用しない

除草剤を
使用しない

ほ場周辺の
虫が増える

害虫の天敵となる
虫が増える

ほ場周辺の
植物種が多様

植生を餌場・
休息場に使用している
カエル等が増える

(広い範囲で
カエル等が増えることで)
鳥類が増える

土づくり

土壌生物は
土の力を
維持・増進する
役割を持つ

有機物を
栄養源として
土壌生物が
増える

作物体の支持

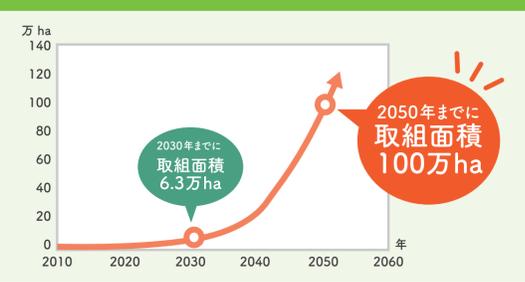
養分供給

土壌炭素貯留量を増加させ、間接的に大気中のCO₂削減に繋がる
(有機農業の温室効果ガス削減量：1.04tCO₂/ha/年)

土壌生物が増えることによって、
土壌の機能を維持・発揮できる

結果、有機農業のほ場の周辺は、
多様な生物の住処になっている

みなさんが有機農産物を選ぶことで農村の生物多様性や地球を守ることに繋がります。環境にやさしい消費にご協力をお願いします。農林水産省は有機農業など、環境にやさしい農業を推進し、2050年までに有機面積を100万haに拡大する目標を目指して取り組み中です。



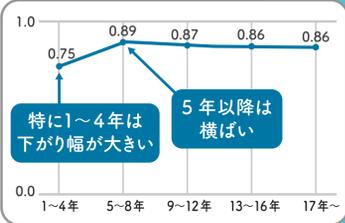
未来に繋がる価値ある選択を



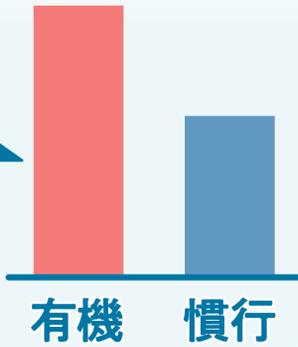
有機食品はなぜ高い？

収量が下がる

化学肥料・農薬を使わないため収量が下がる



有機農産物は慣行農産物に比べて1.5倍~1.8倍の価格差があります



栽培コストがかかる

除草剤や殺虫剤などの化学農薬を使用しない

雑草対策、害虫対策などに手間がかかる



除草作業の時間が増える

流通コストがかかる

生産者一人あたりが負担する流通コストが大きい

慣行 ↓

↑ 有機

宅配便などを使って店舗に納品

小売店は有機農産物を取り扱にくい

有機農産物は「慣行農産物より高い」「慣行農産物ほどまとまった量を調達できない」「慣行農産物ほど安定的に調達できない」という理由から、小売店はロスを懸念し、取扱量を増やせない

転換期間を要する

有機JAS認証を取得するためには、2年間以上*、ほ場が有機的管理をされていることが条件

「有機」と名乗れるのは、有機栽培を始めてから2年以上経った農産物のみ

つまり！有機的管理1~2年目は、有利販売はできない

※ 単年作物は2年、多年作物は3年

このマークが目印！

有機的管理の開始



1年目

2年目

3年目

栽培コスト上昇・収量低下の2重苦なのに有利販売はできないという状況

生産者の利益を確保しつつ、有機農産物を消費者の手の届きやすい価格で供給できるよう、農林水産省は、有機農産物の流通効率化等に取り組んでいます。

環境にやさしい農業に取り組む生産者を応援するために、有機農産物・食品の積極的な選択をお願いします。

地球にやさしい目印です。



有機 JASマーク

詳細はこちら ▶



有機食品とは

農薬や化学肥料、添加物といった化学物質にできるだけ頼らず環境に配慮して生産された食品のことです。



有機 JASマークとは

第三者機関から認証を受けた生産者や製造者により、国際的にも通用する有機JASの基準に基づいて日々の管理が行われた証です。

農産物、畜産物とこれらの加工食品は、有機JASマークがないと「有機」や「オーガニック」と表示できません。



MAFF
Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries
農林水産省



2050年有機100万ha の実現に向けて

～ 全国に広がるオーガニックビレッジの環～

【オーガニックビレッジに取り組む市町村】

※令和6年度新規市町村は下線

令和6年8月時点 **129市町村**

北海道：北海道(安平町・旭川市)

東北：青森県(黒石市・五戸町)、岩手県(花巻市・一関市)、宮城県(登米市・栗原市・大崎市・加美町)、秋田県(大潟村)、山形県(米沢市・鶴岡市・新庄市・川西町・山形市・酒田市・高島町)、福島県(二本松市・喜多方市)

関東：茨城県(常陸大宮市・石岡市・笠間市・かすみがうら市)、栃木県(小山市・市貝町・塩谷町・栃木市)、群馬県(甘楽町・高山村・みなかみ町)、埼玉県(小川町・所沢市)、千葉県(木更津市・佐倉市・神崎町・成田市・いすみ市・多古町)、神奈川県(相模原市・小田原市)、山梨県(北杜市) 長野県(辰野町・松川町・飯田市・飯綱町・伊那市・佐久市)、静岡県(掛川市・藤枝市・川根本町・静岡市・富士宮市・伊豆の国市)

北陸：新潟県(佐渡市・新発田市・五泉市・阿賀野市)、富山県(南砺市・富山市)、石川県(珠洲市・羽咋市)、福井県(越前市)

東海：岐阜県(白川町・飛騨市)、愛知県(東郷町・南知多町・岡崎市・大府市・美浜町・武豊町)、三重県(尾鷲市・名張市・伊賀市)

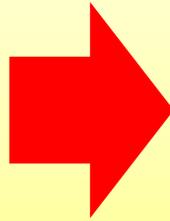
近畿：滋賀県(甲賀市・近江八幡市・日野町)、京都府(亀岡市・京丹後市)、大阪府(堺市・泉大津市)、兵庫県(豊岡市・丹波篠山市・養父市・丹波市・淡路市・神戸市・朝来市・加東市・上郡町)、奈良県(宇陀市・天理市・山添村)、和歌山県(かつらぎ町)

中国四国：鳥取県(日南町)、島根県(浜田市・大田市・邑南町・吉賀町・江津市)、岡山県(和気町)、広島県(神石高原町)、山口県(長門市)、徳島県(小松島市・海陽町)、香川県(三豊市)、愛媛県(今治市)、高知県(馬路村)

九州：福岡県(うきは市)、佐賀県(上峰町・みやき町)、長崎県(南島原市・雲仙市)、熊本県(南阿蘇村・山都町・菊池市)、大分県(佐伯市・臼杵市・豊後高田市)、宮崎県(綾町・高鍋町・木城町・えびの市・宮崎市)、鹿児島県(南さつま市・湧水町・南種子町・徳之島町・姪良市)

のうりんすいさんぎょう かんきょう
農林水産業を取り巻く環境

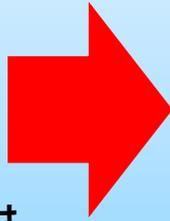
平均気温の上昇



日本の年平均気温は、100年あたり1.28℃上昇しています。2020年の年平均気温は、統計を開始した1898年以降、最も高い値でした。

農作物は気候変動の影響を受けやすく、高温により異常が発生します。例えば、米の品質が悪くなったり、リンゴの色づきが悪くなるなどの被害があります。

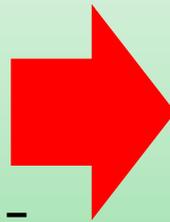
豪雨・台風の頻発



1時間に50mm以上の降水量発生回数は、2012年～2021年の10年間で平均327回でした。これは1976年～1985年と比較し、約1.4倍に増えています。

降雨量の増加や台風により災害の激甚化が引き起こされ、農作物の浸水や、ハウスの倒壊などの被害をもたらしてしまいます。

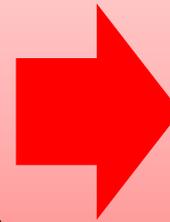
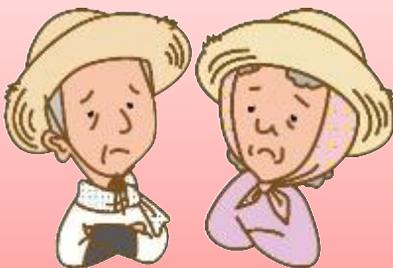
肥料原料の輸入依存



尿素有国内生産は4%、リン酸アンモニウムと塩化カリウムの国内生産は0%となっているなど、肥料原料のほとんどを輸入に依存しています。

肥料は食料生産にとって欠かせないものです。もし輸入することができなくなってしまうと、安定した食料生産を行えなくなってしまいます。

高齢化・後継者不足



60代以下の生産者の人数が、2010年には110万人だったものが、2020年には67万人になるなど、生産者の高齢化・後継者不足が進んでいます。

今後の農業を担う人がいなくなってしまい、農業生産ができなくなるのはもちろん、耕作放棄地などの問題が深刻化してしまいます。

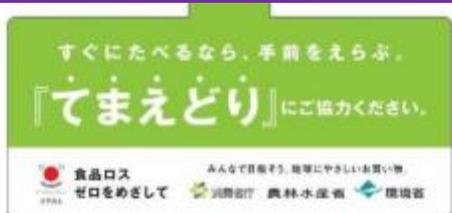
食品ロスしょくひんの削減さくげん

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨^すてられてしまう食べ物のことです。

日本の1年間の食品ロスは約**472万トン** (令和4年度推計値)
= 東京ドーム約4個分になります。(体積約124m³)



「てまえどり」



皮のむきすぎに注意!



農林水産省 食品ロスとは →



食料自給率しょくりょうじきゅうりつを上げる

日本の食料の多くは外国からの輸入に頼っています。

令和5年度の**食料自給率は38%**※

食料自給率の向上により長距離輸送が減り、地球温暖化の防止にもつながります。

※カロリーベース

お米中心の栄養バ
ランスの良い食生活



国民全員がごはんを1日にもう1口食べるだけで、食料自給率は1%アップ!

国産食材を
選択



農林水産省
近畿農政局

農林水産省 日本の食料自給率→



有機食品を選ぶ

有機食品は環境への負荷をできる限り減らして作られた食品のことです。生物多様性を守り、持続可能な農業の実現に貢献しています。

有機JASマークに注目！



認証機関名

JAS法に基づき、「有機JAS」に適合した^{てきごう}生産が行われていることを検査し、^{にんしょう}認証された事業者のみが貼ることができます。

有機農産物



有機加工食品



地産地消を実践する

地産地消とは、遠く離れた場所ではなく、地域で生産されたものを消費する取組です。

輸送距離が短いので、^{かせきねんりょう}化石燃料の使用を減らせます。

直売所や産直コーナー



学校給食でも！



農林水産省
近畿農政局

○【令和6年12月8日(日)～12月13日(金) コープ二条駅 2階 フリースペース KYOTO Co-Lab (きょうとこらぼ) での展示の様子】

